

コミショニング・フォーラム in 九州

2009年4月1日から改正省エネ法が施行されます。建築に係るエネルギー消費の定期報告や中長期計画書の提出、きめ細かな現場でのエネルギー管理が大きく強化されますが、こういった法規制とあわせて、おのずと持続可能な省エネルギー型社会に移行することのできる社会的な仕組みが必要です。コミショニング(性能検証)とは、ビルシステムの実性能の持つべき要求性能を規定し、新築ビル導入や既築ビル運用においてその実性能が要求性能や基準に合致しているかを検証して記録し、合致していなければ改善するといった品質志向のプロセスです。コミショニングによってビルシステムの品質が高まり、その品質が合理的な運用によって維持されることは、良質な建築ストックの形成を通して省エネルギーや環境負荷低減に大きく寄与するものと考えます。日本では2004年に空気調和・衛生工学会によって初めてコミショニングのガイドラインが整備されました。また、コミショニングのための様々なツールも研究・開発されつつあります。しかしながら、コミショニングを如何に社会に浸透させることができるかについては十分な議論がなされていません。そこで今回は、NPO 法人建築設備コミショニング協会(BSCA)と空気調和・衛生工学会九州支部との合同主催により下記のフォーラムを開催し、コミショニングを推進するための忌憚のない意見を出し合うフリートーキングをしたいと思ひます。是非ご出席頂きますようお願い申し上げます。

BSCA 理事・九州支部代表
空気調和・衛生工学会九州支部学術幹事
赤司泰義(九州大学)

日時： 2009年3月26日(木) 13:30～16:30
場所： 電気ビル本館 地下2階 7号会議室(〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-1-82)
主催： NPO 法人建築設備コミショニング協会、(社)空気調和・衛生工学会九州支部
後援： (社)空気調和・衛生工学会
協賛： (社)建築設備技術者協会九州支部
費用： 無料
定員： 80名
申込方法： BSCA ホームページ <http://www.bsca.or.jp/>から

【プログラム】

13:30～13:40 はじめに 中原信生(BSCA 理事長・名古屋大学名誉教授)
13:40～14:10 第一部 BSCA の活動報告 吉田新一(BSCA 理事・新日本空調株式会社)

14:10～14:50 第二部 コミショニングのツールに求められる機能 司会:國吉敬司(株式会社日建設計)

コミショニングを社会に浸透させるためには、コミショニングの作業を効率化させ、より高度な判断や検証の信頼性向上を図ることが必然的に求められます。ここでは、空気調和・衛生工学会コミショニング支援ツール開発小委員会及び IEA/ECBCS/ANNEX にて開発中のツールを具体的に紹介します。

- 1) ハードウェアツール :「ビル用マルチエアコンの試運転調整と性能検証に求められるツール」 山本一郎(高砂熱学工業株式会社)
- 2) ソフトウェアツール :「季節蓄熱を有する空調システムのモデルベースコミショニング」 宮田征門(JSPS 学術研究員、九州大学)
- 3) プロセス管理ツール :「MQC(コミショニングプロセス管理ツール)の紹介」 上谷勝洋(東洋熱工業株式会社)

14:50～15:00 休憩

15:00～15:30 第三部 コミショニングのインセンティブとその可能性 司会:赤司泰義(前出)

コミショニングを社会に浸透させるためには、コミショニングのインセンティブ(動機付け)が不可欠と考えられます。ここでは、行政、オーナー、管理者の立場からそのインセンティブに対する要望や問題点、提案などについて話題提供をして頂きます。

- 1) 行政の立場から :「低炭素社会の実現に向けて - 北九州市における建築部門の対策他」 柴田泰平(北九州市環境局環境政策部)
- 2) オーナーの立場から :「当社における省エネルギーへの取り組みと課題」 柿本仁司(株式会社電気ビル)
- 3) 管理者の立場から :「京都大学のギャランティーESCO の性能検証」 塩田一裕(京都大学施設環境部)

15:30～16:20 第四部 フリートーキング 司会:赤司泰義(前出)

建築に関わる様々なプレーヤーが自ら進んでコミショニングを実施することができるような枠組み構築は可能なのか、可能でなければどこに問題があるのか、その枠組みのなかでツールに求められる機能とはどういうものか、などについてフリートーキングしたいと思ひます。

まとめ 林 徹夫(空気調和・衛生工学会九州支部長・九州大学)